

## 第1回大阪府教育振興基本計画検討委員会(6/28)の審議まとめ

## 「めざす目標像」について

| 委員からの意見等  | 対応(案)  |
|---|--|
| <p><b>求められる学力について</b> ～OECDのキーコンピテンシーとの関連等から～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ OECDのキーコンピテンシーと求められる学力とをどう関係づけるのか？ その部分をしっかりと関係づけると目標設定にも説得力が出る。知識基盤社会において、基礎・基本がどう役立つのかが説明できると良い。</li> <li>○ 知識基盤社会＝グローバル社会となる。「日本の中だけを見て、これだけで良い」とはならない。「知性を育てる」というところが見えた方が良い。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「社会経済状況の変化」として「知識基盤社会の到来」により求められる力の分析を行う。</li> <li>○ 「目標像」の説明部分に「『知識基盤社会』において」を追加。</li> </ul> |
| <p><b>「粘り強く、自分の力を信じて生きていく」姿勢</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「粘り強く、自分の力を信じて生きていく」ということを目標に盛り込んでほしい。</li> <li>○ 人生を切り開くための知力を磨くことが大事。あきらめないのも知力。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「目標像」に「粘り強く」を挿入。</li> <li>○ 「目標像」の説明として「自分に自信を持ち、あきらめずに粘り強く未来へ向け歩いていく人づくり」を追加。</li> </ul>     |
| <p><b>卓越性と公平性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校教育が“いかに公平に行われているのか”“どんな特徴を出していくのか”“公平性と卓越性をどう追求しているのか”。こうした点をわかりやすく表現すると良いのではないのか。</li> <li>○ 社会背景として「格差の増大と固定化」があげられているが、全体の教育水準の保障という点は、引き続き押さえておいてほしい。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「目標像」の説明部分に「様々な分野や立場で社会経済基盤を支え」を追加。</li> <li>○ 「教育振興の目標」の説明部分に「公平な」を追加。</li> </ul>            |
| <p><b>グローバル化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「違いを認め合い互いを尊重」ということがグローバル化に対する最も基本的な考え方だと思う。</li> <li>○ 日本人は発言が少ないが、それは英語力の問題ではない。むしろ、一方通行での教育をしているからではないか。日本語でのコミュニケーション力が必要。</li> <li>○ 国際化のためには、日本の歴史・文化を勉強する必要がある。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第2回検討委員会の「検討課題1」で議論。</li> <li>○ 「目標像」の説明部分において「大阪がはぐくんできた伝統と文化を尊重する」を記載。</li> </ul>           |

## 「教育振興の目標」について

| 委員からの意見等  | 対応(案)  |
|---|--|
| <p><b>支援教育関係</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「違いを認め合い…」や「全ての子ども…」には障がいのある子どもは含まれているのか？</li> <li>○ 支援を必要とする子どもが増えている。 保護者との連携が大事。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「教育振興の目標」の説明部分に「障がいのある子どもをはじめ」を追加。</li> <li>○ 第2回検討委員会の「検討課題2」で議論。</li> </ul>   |
| <p><b>教員力関係</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 先生方のモチベーションをいかに高めるかが重要。</li> <li>○ 教え、育つ教員となる必要がある。</li> <li>○ 先生方に、国際化に関する経験を積んでもらうとともに、豊かな人生経験が求められる。</li> <li>○ コミュニケーションを教えるには、先生方のコミュニケーション力を高めることが必要。</li> <li>○ 教員になる前の教育は大学で、なった後は教育委員会。 これを連続させることが大事。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「教育振興の目標」の説明部分で、教員力について、「教員の力を最大限に引き出し子どもの学びをしっかりと支えるとともに、教育の営みを通じて子どもと教員とが共に力を高めあう学校づくり」として別建てで起こす。</li> <li>○ 第2回検討委員会の「検討課題4」で議論。</li> </ul> |
| <p><b>家庭の教育力関係</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会環境が子どもに与える影響は大きい。 特に親が子どもに与える影響。</li> <li>○ もう少し家庭も巻き込んだ取組みとなるようにした方が良い。</li> <li>○ 教員の保護者対応や保護者との連携がキーワード。保護者との連携を支える仕組みが必要。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「教育振興の目標」の説明部分を「学校・家庭・地域それぞれの教育力を高め、互いに連携し一体となった取組みの推進」に修正。</li> <li>○ 第2回検討委員会の「検討課題5」で議論。</li> </ul>  |

## その他

| 委員からの意見等  | 対応(案)                               |
|---|-------------------------------------|
| <b>「教育力向上プラン」との関係</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 「教育力向上プラン」を「教育振興基本計画」にどう入れていくのか？ 向上プランを踏まえつつも、それ以降の状況の変化をどう加味していくかがポイント</li></ul> | ○ 教育力向上プランと教育振興基本計画の関係を整理。          |
| <b>重点項目</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 教育に投入できる資源には限りがある。 重点を決める必要がある。</li></ul>   | ○ 第2回検討委員会で「主な検討課題」として重点的な項目について議論。 |
| <b>私学関係</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 設置者の違いを超えて、「大阪の子どもはこう育ててほしい」というビジョンにしてほしい</li></ul>   | ○ 第2回検討委員会の「検討課題3」で議論。              |
| <b>危機管理関係</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 東日本大震災の教訓を踏まえ、非日常への対応を今後どう展開するのが課題。</li></ul>   | ○ 第2回検討委員会の「検討課題6」で議論               |
| <b>評価を見据えた目標設定等</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 後々、評価できるような目標を設定すべき。</li><li>○ ある程度具体性を持った目標を設定する必要がある。</li></ul>                   | ○ 第4回・第5回の検討委員会にて議論。                |
| <b>メッセージ性</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○ メッセージ性を持つ必要がある。</li></ul>   | ○ 第4回・第5回の検討委員会にて議論。                |
| <b>文化・スポーツ関係</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 文化やスポーツで子どもを支えることが大事。</li></ul>  | ○ 第4回・第5回の検討委員会にて議論。                |